

事業所名

発達サポートいまる（放課後等デイサービス）

支援プログラム（参考様式）

作成日

2026 年

7 月

7 日

法人（事業所）理念		私たちは、誰もが自分らしく生きる、共に生きていく社会を創造します。					
支援方針		利用者ご家族の心に寄り添い、声なき声をも未来につなげて生きる力を育みます。					
営業時間		9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
		支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	健康状態の把握 ・子どもの心身の状態をきめ細かく観察し、平常と異なるサインに早期に気づく。 ・障害特性により意思表示が難しい子どもへの配慮（痛み・不調のサインを拾う）を行う。 ・必要に応じてリハビリテーション的支援を行い、機能向上を図る。 （例：姿勢保持、筋緊張の調整、摂食機能の支援） 健康の増進 ・睡眠・食事・排泄などの生活リズムの定着支援を行う。 ・食育（食材に触れて、簡単な料理活動を行う。） ・咀嚼・嚥下の状態 口腔内の感覚過敏 姿勢保持 手指の運動機能に応じて自助具の活用や環境調整を行う。 基本的な生活スキルの獲得 ・身の回りの清潔保持を支援する。 ・時間に応じた行動の切り替えができるようにスケジュールや視覚支援（タイマーなど）を行う。 ・自分の体調や気持ちを言語・非言語で伝える力を育てる。 活動の前後の体調のチェックを行う。					
	運動・感覚	粗大運動の支援 ・走る・跳ぶ・投げる・バランスをとるなどの基本動作を行う。 姿勢保持（座位保持、立位保持）を支援する。 ・体幹強化の運動を行う。 運動の切り替えや順番を守る支援をする。 微細運動の支援 ・手指の操作（つまむ・握る・回す） 書字・はさみ・工作など道具の操作・手と目の協応（視覚と動作の連動） 感覚統合の支援 ・感覚過敏・鈍麻への調整 前庭感覚（揺れ・回転） ・固有感覚（押す・引く・重さを感じる） 触覚（素材に触れる、感触遊び） 安全な身体の使い方の習得 ・転倒・衝突を避ける動き 道具の安全な扱い ・危険予測の練習（視覚支援、声かけ） 情緒の安定・自己調整 ・運動を通じたストレス発散 落ち着くための感覚刺激 ・運動前後のクールダウン					
	認知・行動	認知機能の支援 ・見通しを持つためのスケジュール提示 絵カード、写真、文字による ・課題のわかりやすい構造化 選択肢を示して意思決定を促す 行動のコントロール支援 ・切り替えの練習（タイマーなど） 衝動性の調整（待つ・順番の練習） ・落ち着くための方法の練習（深呼吸・感覚調整） 行動がうまくいった時の肯定的フィードバック 実行機能の支援 ・課題の手順を「見える化」 目標設定と達成の経験を大切にする。 ・自分で選ぶ・決める経験をする。 「できたこと」を振り返る習慣付けを行う。 問題解決・意思決定の支援 ・困ったときの対処方法を一緒に考える。 選択肢を提示して比較できるように働きかける。 ・自分の気持ちや考え方を言語化する支援をする。 環境調整（構造化） ・時間（タイマー） 空間・活動の見える化をする。 ・刺激を減らした環境で課題に集中できるようにする。 行動の予測がしやすい環境づくり					

	言語 コミュニケーション	ことばの理解を促す支援 ・絵カード・写真・実物を使った語彙の拡大 ・指示は「短く、具体的に、一貫した提示」を行う。 ・活動の見通しを言語と視覚で提示する。 ことばの表出を促す支援 ・単語→二語文→短文へ段階的に支援をしていく。 ・モデル言語（職員が適切な言い方を示す） ・発話が難しい児童には、ジェスチャー・カード・AACを併用する。 意思伝達の支援 ・選択肢を提示して「選ぶ」経験を増やしていく。 ・要求・拒否の表現方法を複数確保していく。 ・気持ちカードで感情の言語化を促す。 対人コミュニケーションの支援 ・挨拶・順番・共同注意（同じものを見る） ・会話ルールを確認していく。（聞く→話す→待つ） ・相手の表情・気持ちを読み取る練習をする。 環境調整 ・刺激を減らした落ち着いた環境でやり取り ・視覚支援で「何を・いつ・どうするか」を明確化 ・コミュニケーションの方法を統一して混乱を減らす。		
	人間関係 社会性	対人関係 ・挨拶・返事をする。 ・名前を呼ばれたら応じる。 ・相手の表情や気持ちを読み取る。 ・共同注意（同じものを見る・共有する） 社会的ルールの理解 ・順番を待つ ・ルールのある遊びをする。 ・時間・場所に応じた行動をする。 ・「していいこと/してはいけないこと」の理解をする。 感情理解・感情調整 ・気持ちカードで感情を言語化する。・自分の気持ちを伝える練習 ・他者の気持ちを想像する練習 ・落ち着くための方法（深呼吸・間隔調整） 協働・協力 ・ペア活動 ・グループでの役割分担 ・協力して達成するゲームを行う。 ・他者の意見を聞く練習をする。 環境調整 ・刺激を減らした安心できる対人環境 ・視覚支援でルールや順番を見える化 ・関わり方のモデルの提示（職員が見本を提示する）		
家族支援		家族の思い・状況の把握を丁寧に行う。 障害特性・発達の理解を促す支援を行う。 家庭での生活支援（生活リズム・行動面の助言・提案を行う。） 情緒的支援（家族の安心） 情報提供・相談先の紹介（必要に応じて行う。） 家族との協働（共同で子どもを支える） きょうだい児に対する相談援助を行う。 保護者同士の交流の機会を提供する。	移行支援	就学後の生活・学習にスムーズに適応できるように支援する。 事業所で培った力を学校生活につなげていけるように支援していく 環境変化によるストレス・不適応を防ぐ。 保護者の不安軽減と、関係機関の連携強化をはかる。
地域支援・地域連携		学校、サービス事業所、相談支援事業所、医療機関の情報共有、連携や調整をはかる。 ・地域の行事に参加できる機会を作り、地域資源を療育に生かしていく。	職員の質の向上	・職員の資質の向上の支援に関する計画を策定し、その計画にかかる研修実施をし、学習した内容を話し合い共有する。 ・日々の療育や障害の特性など疑問に思うことは、毎月の職員会議、その都度話をする。 ・毎月ケース検討会を行い、情報共有を行う。
主な行事等		お花見、こどもの日、お買い物体験、クッキング、七夕、水遊び、木の実工作、ハロウィン、クリスマス、お正月遊び、節分、お雛様、クッキング、モノづくり、かがく遊び、お買い物外遊び、遠足		